

今月の重点活動

■小麦 赤かび病の防除を徹底

岐阜管内では、水田を有効活用するための戦略作物として、準硬質小麦「タマイズミ」が約420ha栽培されている。農林事務所では「タマイズミ」の高位安定生産のため、適期播種、追肥の施用、赤かび病防除について指導を行っている。

令和5年産は、播種作業が適期に行われた後、12～1月の低温により生育が停滞したが、2月末以降に高温が続いたことから生育は順調に進んだ。全体に生育は早く、出穂期は平年より5～10日程度早まり、多くが4月3日～4月14日となった。

農林事務所では、4月上旬から出穂状況の調査を行い、赤かび病の適期防除指導を続けてきた。カビ毒を含まない安全な小麦を生産するためには、適期に2回の赤かび病防除を行うことが重要であり、小麦の開花時期に合わせた赤かび病の防除作業が始まっている。

今後は、赤かび病の発生状況の調査や収穫適期について情報提供を行い、良質な小麦を生産できるよう指導を行っていく。

(地域支援第一係・遠藤 るみ子、地域支援第二係・小島 康平、地域支援第三係・神田 秀仁)



【小麦防除の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■岐阜地域青年農業士連絡協議会 令和4年度総会を開催

岐阜地域青年農業士連絡協議会は13名の会員から構成されており、令和4年度の事業年度が終了したため、4月20日にWeb会議方式による総会を開催した。

農林事務所では、会員からの要望を踏まえ、令和4年度事業の推進にあたり会員間の情報提供は電子ファイルで行い、会議はWeb会議システムを活用し、研修会では参加できない会員のために録画共有をするなど、活動の電子化を進めた。従来の郵送、ファックス、対面の会議と比べ、迅速かつ効率的な活動を行うことができた。

今後の具体的な事業計画等について意見交換したところ、会員間の情報交換を重視し、お互いの経営から学び合いたいという発言が多数出された。青年農業者の情報交換と交流促進に向けて、農林事務所では1年間の事業活動を支援していく。

(園芸産地支援第一係・小森 志保)



【ウェブ会議 webex の活用】

■岐阜市民春野菜栽培研修会 安全安心で高品質な野菜づくりを指導

岐阜市農林課は4月19日、岐阜市民を対象とした「春野菜栽培研修会」を開催し、60名が参加した。同研修会は、岐阜市民が農業に触れながら、環境保護の意義や安全安心の活動を学ぶ機会として、毎年開催されている。

当日は、農林事務所が講師となり、「岐阜市民が土に触れることで、農業を身近に感じてくれ、農業に関心を持っていただきたい」と挨拶ののち、春野菜の栽培管理などを説明した。品質の高い野菜を収穫するには、除草やかん水など、小まめな管理が必要であることを伝え、参加者の管理意欲の向上に繋がるよう栽培指導を行った。

(地域支援第一係・藤田 文彦)



【研修会風景】

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■有機農業 JAぎふ有機栽培実証ほの収穫期調査を実施

4月19日にJAぎふの有機栽培実証ほ（各務原市）において、農林事務所とJAぎふ職員で収穫期調査を実施した。実証ほ場では、春に収穫する野菜として、だいこん、キャベツ、にんじんを栽培しており、化成肥料のみの慣行栽培区に対して、堆肥や有機肥料を組合せた調査区を設置し、収量や品質に関する比較実証試験を行っている。

4月5日に収穫期調査を行った「だいこん」、今回の「キャベツ」については、慣行栽培区と収量・品質は同等でそん色ないことを確認した。5月上旬には「にんじん」の収穫期調査を実施する予定である。

（地域支援第二係・足立 昌俊）



【キャベツ調査の様子】

■水稲 JA営農担当者への栽培管理研修会（Web）の開催

4月12日にJAぎふ本店において、JA営農担当者を対象とした水稲青空教室研修会が開催された。この研修会は、田植時期を前にJA営農担当者が栽培品種の特性や本田初期管理のポイントについて理解を深め、今後各地で開催される水稲青空教室で説明が出来るようにJAぎふが毎年開催している。今年もWeb形式での開催でJA営農担当者約50名が参加した。

研修会では農林事務所が講師となり、水稲生育前半期の育苗及び栽培管理上の留意点、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策としては田植後3週間程度の浅水管理が被害軽減に効果が高いことなどを解説した。今後農林事務所では、JA営農担当者と連携し、令和5年産米の安定生産に向けて、肥培管理指導や生育調査を実施していく。

（地域支援第三係・神田 秀仁）



【ウェブ研修会の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■ブドウ ジベレリン研修会の開催

長良果樹振興会ぶどう部会は4月18日、岐阜市中川原のブドウほ場において、現地研修会を開催した。本研修会は、ブドウ栽培で最も重要なジベレリンの適正処理や新梢・房管理の徹底を目的に毎年この時期に開催されている。

研修会では農林事務所やメーカーが講師となり、不要な副芽、極端に弱い新梢や強い新梢を切除する新梢の管理や摘房の方法、また、2回実施する「デラウェア」と「巨峰」のジベレリン処理の時期や濃度について、現地ほ場で説明を行った。

今後、生産者は5月～6月上旬にかけ、新梢管理、房づくり、ジベレリン処理等作業を行っていくことから、農林事務所では継続的な栽培管理指導を行っていく。（園芸産地支援第二係・瀧孝文）



【研修会の様子】

■いちご いちご栽培研修会の開催

JAぎふ岐阜市いちご部会の栽培研修会が4月4日にJAぎふ合渡支店、4月7日に木田出荷場で開催され、合計26名の生産者が出席した。

農林事務所が講師となり、生育状況と今後の栽培管理について、①過熟果対策 ②夜間の温度管理 ③灰色かび病対策 ④親株の観察と管理を重点に、環境制御を進めていくうえで重要な植物の生理生態や、メカニズムと結びつけた説明を行った。

また、現地で進めている天敵等によるアザミウマ類、コナジラミ類の防除や園芸特産振興会から提供された予察用粘着版の活用方法について情報提供し、意見交換を行った。

いちごの出荷はシーズンの後半に差し掛かっており、最後まであきらめない栽培管理と出荷を呼びかけた。（園芸産地支援第二係 若原浩司）